

(様式第9号)

## 高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

令和8年2月16日作成

会議の名称	令和7年度 高槻市立第十中学校区 第3回学校運営協議会		
会議の開催日時	令和8年2月16日(月) 18:00~19:30		
会議の開催場所	高槻市立桜台小学校 ランチルーム	公開の可否	可
担当課	教育指導課・教育総務課	傍聴者数	0人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)			
出席委員	三川俊樹、飯塚宏平、田中啓子、吉川明、重松良之、山崎悦子 家岡貴子、川口賀世子		
事務局出席者	(第十中) 宮崎義之、高橋輝、窪田恵美子、永保遼 (竹の内小) 松山健次、石神知佐、土谷定義、加藤学、田崎翔大 添郷貴史 (桜台小) 丸山みち子、西山高史、西田淳一、楨原鉄也、加藤諒一		
会議の議題	1. グランドデザインに基づいた第十中学校区の活動状況及び評価について 2. 質疑応答と意見交流 3. その他		
配付資料	資料1 学校運営協議会委員名簿・事務局名簿 資料2 令和7年度 第十中学校区グランドデザイン 資料3 今年度の第十中学校区の活動状況および評価 資料4 第十中学校区学校教育自己診断アンケート結果		
審議等の内容	・学校運営状況報告と協議		

(別紙)

## 高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

1. 開会	<p>校長 あいさつ</p> <p>委員及び事務局出席者の紹介 会議の公開に関する要綱・傍聴要領について 傍聴希望者の確認→希望者なし</p>
2. 議題 1	<p>(議案 1) グランドデザインに基づいた第十中学校区の活動状況及び評価について 学校 (校区、各校) より説明</p>
3. 議題 2	<p>(議案 2) 質疑応答と意見交流 〈質疑応答内容〉</p>
委員	<p>報告はポイントが明確に整理されており、その中にちりばめられた言葉から、3校の先生方が子どもたちにどのような姿勢で日々指導に向き合っているのかが、非常によく伝わってきた。3年間コミュニティ・スクールに関わってきたが、この3年間で積み上げてこられた素晴らしい取り組みが、まさにこのまとめに凝縮されていると感じている。</p> <p>行政にいた頃、上司から「授業づくりに取り組むのは何のためか」と尋ねられたことがある。当時、私は学力向上を担当していたため「学力向上のため」と答えた。すると上司は、「それは大切だが授業づくりの一側面にすぎない。授業改善を進めることによって、学校として組織的に子どもたちを育てる体制＝組織づくりが整っていくのだ」と教えてくれた。</p> <p>今回の取組からは、まさにその「組織として子どもを育てる姿」が感じられる。中学校区で小中が連携しながら、先生方が同じ方向を向いて取り組んできたことが、報告全体からしっかりと伝わってくる。</p>
委員	<p>地域との関わりについて、具体的な例を一つ紹介する。私は竹の内地区の社協で仕事をしており、地域の行事にも関わっている。昨日はちょうど、75歳以上の方を対象とした食事サービスの日で、コミセンの大集会室でお弁当を囲みながら楽しい時間を過ごしていただいた。</p> <p>その会場には、今、中学3年生が美術の授業で制作した作品が20点ほど展示されている。来場された75歳以上の皆さんが作品を一つひとつ</p>

眺めながら、

「今の中学3年生はこんなことをするんやねえ。すごいねえ。きれいねえ。」

と、とても嬉しそうに話しておられた。その姿を見て、地域と学校がこのように自然につながり合える関係は本当に素敵だと感じた。

こうした形で、地域の施設や公民館、小学校のホールなどにも中学校の作品を展示すれば、地域の方だけでなく、小学校に来られる保護者や来校者の目にも触れる。地域の多くの方に、子どもたちの活動や成長を知ってもらえる非常に良い取り組みだと改めて感じている。

委員 質問が三つある。

まず一つ目が、アンケートに「将来役に立つ」という項目があった。その“将来”という言葉が、子どもたちがどれくらい先のこととして捉えて答えているのかが気になっている。保護者が考える“将来”と、子どもが思い浮かべる“将来”は、おそらく異なる。

例えば、保護者にとっての将来は、仕事だけでなく、人との関わりや生き方など、もっと広いイメージを含むと思われる。一方で子どもにとっては、「将来＝どんな仕事をしたいか」というイメージが強いのではないかな。

アンケートを取る際に、子どもたちに「将来とはこういうことだ」といった説明をしているのか、それとも特に定義せず“将来”として回答してもらっているのか、その点を聞きたいというのが一つ目の質問である。二つ目は宿題についてである。宿題というのは本当に難しい。小学校ではどのように宿題を出しているのかが気になっている。昭和の時代のように全員同じ宿題を出す形なのか、それとも現在求められている「個別最適な学び」に合わせて、内容や量に配慮した宿題なのか。

全員同じ宿題で本当に良いのかという点も含めて、小学校としてどのように考えているのかを知りたいと思っている。

三つ目は、総合的な学習と地域との関わりについてである。資料を見ると、地域の方に多く関わっていただいていることが分かるが、これは総合的な学習の時間だけなのか、それとも日常的にも地域の方と関わる場面があるのかを知りたい。

私が以前勤めていた小学校では、クラブ活動にも地域の方が来て指導してくださっていた。この学校区でも同様のクラブとの関わりがあるのか、また、総合だけでなく普段から子どもが地域の人と関われるような場があるのかをお聞きしたい。

学校	<p>具体的に将来がこういうことだとは明示していない。子どもは将来=将来何がやりたいかという仕事のイメージではないか。親は仕事以外の人との関わりを考えているのではないか？</p>
学校	<p>桜台小学校では、毎日、漢字・ドリル・計算などの基礎的な宿題を全学年共通で出している。読書離れへの対策として音読も課している。まだ「自分で学習を組み立てる力」が十分ではないため、最低限の学習機会を保障する意図がある。</p> <p>週末には、子どもが内容を選べる「プラスノート」に取り組みせ、掲示や表彰などで意欲を高めている。これは、自分で課題を設定する力を育てることを狙いとしている。</p> <p>地域との関わりについては、現在、外部講師によるクラブ活動はなく、隣のこども園との交流活動のみを行っている。</p>
委員	<p>プラスノートの取り組みは大変良いものだと感じている。しかし、ドリルのような基礎的な学習が「やらされる作業」になってしまうと、子どもたちが目的意識をもって学ぶことにつながりにくいとも考えている。</p> <p>そのため、どのように意識づけを行い、子どもたちの気持ちを動かしていくかが課題である。</p> <p>また、クラブ活動については、神戸市で中学校の部活動が全面的に地域移行された経験から、立ち上げや受け皿づくりの難しさがある一方で、子どもにとって選択肢が広がる良さもあると考えている。将来的な地域クラブとの連携を見据え、小学校段階から地域の方に得意分野を教えていただくような小さな取り組みを積み重ねていくことが重要だと思っている。</p> <p>この地域でも、地域ならではの力を生かし、長い目で見つながりをつくっていけることを期待している。</p>
学校	<p>竹の内小学校では、コロナ前には将棋クラブに地域の高齢者が来て指導していたが、現在は年齢的な理由などもあり、地域の方に来てもらう機会はなくなっている。そのため、現在は市の将棋連盟から講師を1名招いて対応している状況である。</p> <p>地域の力を借りることには良さがある一方で、保護者が教室に入る場合には、他の保護者から意見が出ることがあり、学校として依頼しにくい難しさがある。ただし、「地域の方」としてであれば受け入れやすい面があり、調理実習やクラブ活動を手伝ってくれる人もいる。しかし、地</p>

	<p>域の方が入ることによって学校方針とのずれが生じる場合もあり、その調整が必要になることもある。</p> <p>それでも、社会全体が「地域とともにある学校」へと向かいつつあり、学校としても地域の力を借りながら進めていく必要性は高まっている。教員側も意識を変えていくことが求められていると感じている。</p>
委員	<p>部活動の地域移行は、進め方を誤ると活動自体がなくなってしまう危険もあると感じている。実際、演劇などは受け皿が作れずに消えてしまった例もある。また、地域の受け皿づくりにはどうしても偏りが出て、サッカーはあるが野球はないなど、種目によって差が生じることも課題である。</p>
	<p>その中で、市内のある中学校区では、複数校が協力し、「この地区はサッカー」「この地区は野球」といった形で役割分担を行い、地域全体で受け皿を整えることでうまく機能している例がある。このように地域同士が連携できれば、地域移行もよりスムーズに進むと思われる。</p> <p>しかし一方で、中学校区全体としてどのように進めていくのか、まだ明確な見通しが持ちにくく、不安を抱えたまま移行を進めているのが現状だと感じている。</p>
委員	<p>私から申し上げたいことが大きく二つある。</p> <p>まず一つ目は、この取り組みをぜひすべての先生方にしっかりフィードバックしてほしいということである。3年間の努力を通して、先生方がどんなことを意識し、どんな手応えを感じながら取り組んできたのか。それを学校全体で共有し、お互いの良さを認め合うことは、校長先生の大きな役割でもあると考えている。</p> <p>今日ここにいらっしゃる先生方はもちろん、参加していない先生方にも、「自分たちの取り組みがここまで成果につながったのだ」という実感をもってもらえるよう、ぜひ共有を進めてほしい。</p> <p>二つ目は、ご質問にも関わる部分だが、この3年間の取り組みを振り返ると、今日の発表の中にすでに多くの答えがあったのではないかということである。</p> <p>たとえば、地域の方とどう関わっていくかについても、今日の報告には多くのヒントが含まれていたと感じている。</p> <p>学習のねらいや成果を、地域や保護者にどのように伝えていくかという点も、子どもたちのキャリア形成において非常に重要である。キャリア教育を進める上でも、ぜひ「キャリアパスポート」を充実させてほし</p>

	<p>い。</p> <p>子どもたちの取り組みや成長が見える形で伝わり、そこに保護者からのメッセージが添えられることによって、キャリアパスポートの価値は最大限に発揮される。</p> <p>また、子どもたちの安全・安心についての話もあった。カウンセリングマインドによる支援の例も含め、子どもたちが安心して過ごせる学級づくりや、教師と児童、生徒同士の信頼関係づくりが進んでいることは、大変素晴らしい成果だと感じている。</p> <p>スクリーニングシートを活用した未然防止や支援体制づくりも非常に効果があったと受け止めている。こうした取り組みは、今後も継続して活かしていくべきである。</p> <p>新しいことを次々に取り入れることだけが改革ではない。</p> <p>これまで積み重ねてきた中で“うまくいったこと”を、さらに丁寧に続けていく。</p> <p>その積み重ねが、より大きな成果につながるはずである。</p> <p>これが、私からの一番の思いである。</p>
委員	<p>小学校3年生の先生方の素晴らしい取り組みの例を一つ紹介する。</p> <p>以前、小さなきっかけから地域の方に来ていただく活動が始まった。「地域の名人図鑑」を作ろうという取り組みで、地域で歌を歌うサロンのようなグループの方々が協力してくださり、3年生の授業と一緒に参加してくれた。</p> <p>授業の中で名人の方にお話を聞いたり、一緒に歌を歌ったりする姿は、本当に温かいものであった。</p> <p>その後、子どもたちの様子はもちろん、地域の60代・70代・80代の方もとても喜び、活動に参加したことで元気になったという声もあった。写真撮影を担当した地域スタッフの方も、「教えるとなると、どう伝えたらいいか必死で考えた」と話しており、双方にとって大きな学びになったように思う。</p> <p>どれだけの児童生徒に影響があったのかまでは分からないが、地域側から見ても非常によい経験であり、学校と地域のつながりの形として大変意義のある活動であった。</p>
委員	<p>私からも一点、伝えたいことがある。</p> <p>今回の資料を拝見していて、子どもたちの生の声が多く掲載されていたことがとても良かった。小学生なりの言葉、中学生なりの言葉があり、</p>

<p>4. その他 今後の予定</p> <p>5. 閉会</p>	<p>その違いからも成長の段階がよく感じられた。</p> <p>例年、アンケート結果は保護者向けに文書として配布されていると思うが、そこに今回のような“子どもたちの意見”をもう少し盛り込んでもらえると、保護者としての受け取り方が大きく変わるのではないかと思う。</p> <p>というのも、保護者はどうしても「学校は本当に子どもたちの意見を聞いてくれているのか」と不安に感じることもある。しかし、子どもたち自身のリアルな声が資料に載っていると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「子どもがこう言っているなら、先生方はしっかり向き合っているのだな」</li> <li>• 「学校が楽しいと言っているなら安心だな」</li> </ul> <p>という気持ちにつながる。</p> <p>“子どもたちの言葉そのもの”にこそ説得力がある。</p> <p>そういう意味でも、こうした声を資料に反映していくことは、学校理解を深める大きな助けになると感じた。</p> <p>もう一点は、地域との連携についてである。「地域の人」といっても、保護者でもあり地域住民でもあるというように、立場が重なって曖昧な場合があり、非常にデリケートで難しい側面がある。誰がどこまで関わられるのか、学校としても整理が必要だと感じている。</p> <p>校長 あいさつ</p>
--------------------------------------	---